

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3393400043		
法人名	株式会社三笠商会		
事業所名	グループホームゆばら(各ユニット共通)		
所在地	岡山県真庭市下湯原125-1		
自己評価作成日	平成29年3月21日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・協力病院がすぐ近くにあるので、緊急対応が迅速にできることから、家族の方には安心していただいている。</p> <p>・職員もケアマネが4人、介護福祉士が9人いるので、介護の専門的なことについて熟知して、利用者のお世話をしている。</p> <p>・毎日のレクリエーションも充実して、利用者の個々の得意なこと、興味を持たれていることなどを理解し、楽しい時間を過ごしていただくことができるようになった。</p>

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=3393400043-008&PrefCd=33&Versi
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO・会館
訪問調査日	平成29年3月27日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>今年は近年にない大雪でこのホーム周辺も例外ではなかったようで、遠くに見える山の頂にはまだ残雪があった。訪ねて玄関からリビングに入ると利用者が数人テーブルを囲んで何やら制作中のような様子。午前中に作っていたぬり絵のチューリップ畑が午後にはリビングの壁に展示されていて、春の景色に染まっていた。このホームの一番の特色はレクリエーションが充実していることであり、毎月の行事計画を見ても実に豊富なメニューがある。活動の様子も展示されている作品や写真から伝わってくる。職員と利用者との話のやりとりもユニークで聞いていて面白い。以前は1年間のサークル活動の役割を決めていたが、若い職員の自主性に任せ自由な発想で取り組んでもらったところモチベーションが上がり良い成果が得られたと聞いた。その一つが、職員手作りの入浴剤であり利用者にとっても好評との事。ホーム長が「利用者よりも職員が楽しもうとしている、職員にとっての喜びが増えた」と語るように、このホームには利用者の笑顔とそれを支える職員の笑顔が溢れている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・日々の介護の中で問題が生じたときや、困ったときは理念にかえり、介護にあたるようにしている。	毎朝申し送り時に自立を促すための介護基本である4項目の「実践」を唱和し、意識を高めると共に職員間で共有している。共用型認知症通所介護を併設している事で却って活気づき、職員にとっても喜びが増えた。利用者よりも職員が楽しむ姿勢で頑張っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・施設長が地域の中で生活し、また、役など引き受けているので、地域の情報が迅速に入り、行事などの参加が容易にできている。	昨年度からホームの夏祭りを開催するようになり、今年度も近隣の住民・子供を始め大勢の参加者で賑わった。地域の秋祭りには子供神輿が寄ってくれ利用者も見学して喜ぶ等、地域交流も根付いている。ホームのフェイスブックで活動状況等を広く情報発信している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・職員も経験が豊富になり、それぞれの地区において相談に乗ったり、集会で話などしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・運営推進会議が2か月に1回あることにより、利用者状況や職員状況、行事などを再確認することができる。	運営推進会議の委員長・副委員長は地域の人であり、設立当初の区長が委員長の任に当たり司会をしている。他に市の担当者、訪問看護、家族等の参加がある。活動報告、情報交換、ヒヤリハットの事例報告等をして有意義な意見交換をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・運営推進会議に市の職員が出席して、お互いの情報交換を行っている。 ・真庭市グループホーム連絡会議においても情報を共有し連携を取り合っている。	4か月に1回開催される真庭市GH連絡会議に毎回参加、市主催の「コミュニケーションについて」の研修や湯原地域ケア会議、多職種懇談会等にも参加して情報交換をしており、日頃から良い協力関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束の禁止については、施設長が研修に参加したり、ホーム内においても研修を行い、必要な時は家族から承諾書を取っている。	玄関の施錠はしていない。外出願望が強く外に出た時には職員が寄り添い見守りをして気分転換をもらっている。病院では作っているのでもホームでも身体拘束同意書を作ってはどうかという訪問看護師からの助言もあり、現在転倒防止の為、4点ベッド柵を検討中の人がいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・虐待防止については、施設内で研修を行ったり、入浴時や更衣時に擦り傷やかすり傷がないか、確認し情報を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・管理者が施設内研修や会議時に他の職員に知らせている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約締結前に、契約、解約、重要事項について説明を行い、契約後も疑問が生じた場合、その都度説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・面会時、家族に日頃の生活の様子をお話するとともにホームに対する要望をお聞きしプランに反映させている。必要な場合は電話の対応もしている。	行事の後、家族会を開催しており、参加も多く協力的である。家族からは「フェイスブックを見られて良かった。楽しみに見ている」「面会時の会話の材料になるので良い」等の意見もある。家族の面会時には意見や要望をよく聞いており、2ヶ月ごとに広報誌を発行し家族に送付している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・毎日の申し送り時や、会議において気軽に施設長に提案や要望をしている。	このホームは介護支援専門員・介護福祉士等の有資格者が多く、昨年も資格取得にチャレンジした職員がいた。新規採用もあり職員も若返り、仲よく自由にやっていると聞いた。共用型認知症通所介護を併設しているので、送迎の時職員体制が手薄になるのが課題でもある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・経験、資格等を給与基準とし、資格内容によって手当を付けている。又、未資格者には資格取得援助を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・管理者は職員一人一人の体調の変化や精神的変化に心を配り、必要に応じて話し合いを行っている。又、各研修に出席したり施設内研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・施設長が岡山県介護支援専門員協会の北部役員をしていることから、情報が幅広く入り、他施設との交流も頻繁に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入所前に何度か訪問したり、見学して頂き、又担当のケアマネからの情報提供を依頼するなどして信頼関係を築くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・家族の方に安心していただけるように、こまめに連絡を取り支援においてわからないことや困ったことが生じた場合早急に解決し、安心していただくように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・家族、担当ケアマネからこれまでの生活の様子を詳しく聞いて、新しい生活にスムーズに慣れるように支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・利用者の性格を理解し、尊重し相手の立場に立って介護者同士情報を共有し、ともに安心して楽しく生活できるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・家族に利用者の状況を詳しく伝えると同時に、ホームの方針も丁寧に伝え理解していただきよりよい生活ができるよう援助に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・馴染みの人が訪れやすい環境を整え、又ドライブなどでは本人の行きたいところへ行くようにしている。	家族の迎いで自宅に帰り、田植えを手伝い夕方日焼けして帰った利用者もいる。ホーム前の温泉病院に受診に行った時、知り合いに会って話をする事もよくあり、家族や知人、友人の面会も多い。温泉街に以前住んでいた利用者と一緒に懐かしい場所へ食事に行く等、馴染みの関係の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・利用者同士の関係ができて、楽しく会話している人もいるが、一人である人は孤独にならないように介護者が側に寄りそうようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・契約が終了するのは、病院での治療になることが多いが、契約終了後も家族の希望があれば、病院での様子など伝えるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・色々な活動することによって、利用者それぞれの楽しいこと、嫌いなことを把握することができるようになったので、職員間で情報を共有しそれぞれに合わせた支援ができるよう努めたい。	日々の関わりの中の会話から利用者の思いや希望を汲み取るように努めているが、心の内面深くまで寄り添う事が不十分なので、職員が利用者や個々に話す事を習慣化することを目標にして取り組んでいる。	日頃から利用者によく話をしているが、1日に10分～15分一人の人とじっくり向き合い話を聞く「10分間ケア」を試みてはどうかと思う。自分だけに寄り添ってくれる満足感と胸の内にある思いを十分話せた時には心の高揚感を持ってもらえるだろう
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・サービスを提供するにあたって、今までの生活歴や生活環境を十分理解したうえで援助している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・個々の介護記録(排泄、食事量、バイタルチェック等)を熟知し一人一人が安心して生活できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・日々の申し送り時とモニタリングの会議で各種サービスや支援が円滑にできているか、新たなニーズが発生していないかを継続的に行っている。	本人・家族のニーズを基に目標を立て、日常生活支援プラン表(ケア内容分担表)の記述も具体的な支援内容になっている。アセスメント・モニタリングをして定期的或いは必要に応じて職員間で話し合いケアプランを作成している。	本人・家族の意向をよく捉えていると思うが、ニーズ・目標が一般的・画一的で個別性があまり感じられない。例えば帰宅願望・不穏症状のある人の場合、課題の抽出をして、声かけなどの対応策をプランに盛り込んで欲しい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々の介護記録や受診時の医療記録、面会時の家族との会話記録などの情報を共有し、個人の目標達成のために生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・職員一人一人柔軟な気持ちで、臨機応変に対応できるよう、職員同士のコミュニケーションを大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・施設長が地元に住んでいるのと、地元で色々な役を受けているので、情報が迅速に入ることから買い物や美容院、行事などにもスムーズに参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・月に1回定期受診を行い、緊急時の場合は休日、夜間を問わず受診ができるよう協力病院との体制が整っている。	利用者は全員、ホームの向かい側にある温泉病院を受診しており、週1回訪問看護も来てくれる。緊急時には24時間オンコール体制で連携が出来る。神経内科・歯科は職員が受診同行しているが、眼科は家族が付き添い受診をしている人もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・週一度訪問看護を取り入れている。又、医師との相談においても訪問看護師が便宜を図ってくれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・日頃から協力病院とは信頼関係を築いているので入退院時は家族と病院とのパイプ役を果たしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・重度化や終末期についての研修に行ったりして、体制も整っているが、病院で終末を迎えられることが多い。	すぐ目の前に協力医療機関があり、重度化して医療が必要になった場合には病院に入院となるケースが殆どであり、ホームで看取りをした経験はない。しかし、職員は「ターミナルのあり方」を研修して知識は身に付けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・マニュアルに沿って、急変時や事故の時は対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・施設長が地元であり、又施設長の親族が近くに住んでいたり、運営委員さんも近くなので協力体制は整っている。	避難訓練は年3回実施しており、消防署の立会いの下消火器を使った消火訓練、通報訓練をし、1Fは近い出口から避難、2Fは階段を使って又は動けない人はテラスに誘導した。下湯原は災害時には地形的に安全と言われているが、台風・水害を想定して2階に避難訓練した事もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・職員も利用者も変わることが少ないので、馴れ合いになりがちなので、お互いに注意しあって誇りやプライバシーを傷つけないように気を付けている。	プライバシーに配慮して、20cmくらいの箱を置いて閉め、居室のドアを全開にしない工夫をしたり、排泄時トイレのドアを閉めている。新人職員には接遇の研修をして、言葉使いや対応が気になる時は注意喚起を促している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・レク等も参加したくないときは居室で読書したり、眠い人は遅い朝食を取ったりなど柔軟に対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・職員が業務を優先しようとするときは、何が大切かを話し、利用者中心の生活になるよう注意している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・外出時や誕生日にはおしゃれをして(ネイル、メイクなど)楽しい気持ちになっていただくよう配慮している。又、日々の更衣においても職員が勝手に決めることなく、利用者の希望を取り入れている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・レクでのおやつ作りや、昼食のハンバーグや焼きそばと一緒に作るなどして楽しく食事ができるよう心がけている。又、誕生日には外食なども取り入れている。	外部の委託業者が配達した食材を職員が調理している。個々の食事形態により、ミキサー食、刻み、普通食と様々だが全介助の人には職員が話かけながら一緒に食事をしてきた。毎月おやつ作りや行事食を楽しんでいる。皆で三角巾をして手伝っている写真もあった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・利用者の病状や咀嚼力に合わせて、刻み食、ミキサー食、大盛、小盛、おかゆなどできるだけのことをして提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・食前の嚥下体操、義歯の消毒、又、歯磨きにおいては個々にあった歯ブラシやスポンジ等を私用して清潔に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・トイレでの排泄を基本とし、個々の排泄パターンを把握し、紙パンツや、紙おしめが外せるよう努めている。	日中は布パンツで過ごしてもらうことに力を入れており、現在布パンツ4名、布パンツ+小パット7名、リハビリパンツ+パット5名で、こまめな声かけを心がけ排泄機能の維持に努めている。将来的には一人でも多く布パンツにしようと計画している。家族にも「こんなに良くなるとは」と喜ばれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・個々の排便リズムを把握し、薬に頼らず、食事や飲み物で対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	・入浴が嫌いな人もいるので、入浴の心地よさを解ってもらうために、一緒に入浴剤を作ったり、夕方入浴していただくなどの努力をしている。又、季節ごとに菖蒲湯、ゆず湯なども取り入れている。	入浴が自立の人が17名中11名と多いが、安全の為に声かけや見守りはしている。シャワー浴や二人介助をしている人は数名。毎日入浴又は清拭を行っており、夜入りたいと言う人には希望に応じて夜に入浴支援している。手作りの入浴剤で楽しく入っている。	清潔保持やリラクゼーションの為に毎日の入浴も必要かもしれないが、冬季などは利用者の体力的な負担を考えて少し入浴回数を減らしてもいいのではないかと考える。日曜日だけでも休浴日にしてみる事から始めてはどうだろうか。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・いつでも好きなときに休んでいただいているが、夜間の暖房や、照明は個々に合わせて気持ちよく休んでいただくようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・くすりの変更があったときは情報を職員間で共有し、必要な場合は家族にも伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・日々の活動や、介護の中で個々の状態を把握してできることを(洗濯干し、掃除、食事の手伝いなど)それぞれにあったことを楽しみながらしていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・行事の中に外出を取り入れているが、個々の希望に合わせて行きたいところにドライブしているが、時には家族にお願いして一緒に出掛けてもらっている(実家など)	年間行事計画を立てて、花見、春のドライブ、あじさい祭り、紅葉見学、秋のドライブ等の外出支援をして非日常を楽しんでもらっている。家族の協力を得てお墓参りに出かけた後、外食に行く等、個別の外出支援もしている。ホーム周辺は自然が豊かであり散歩も日常的に楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・基本的にはお金はホームで預かっていないが、本人の希望があれば、家族と相談して少額預かっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・家族や友人に電話をされることはしばしばある。手紙のやりとりは現在のところない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・利用者にとって心地よい場所であるか、職員間で話し合っ、食堂の座る位置やソファの場所など決めている。又、壁画についても職員の趣味になっていないか気を付けている。	「むかしばなし」をテーマにした壁絵等の共同作品や行事の写真、習字等がリビングに展示されている。共用型認知症通所介護を利用している人も同じフロアでレクをしたり、歌を唄って利用者と一緒に過ごしている。午前中に皆で取り組んでいたぬり絵のチューリップ畑が午後には完成してリビングに飾られていた。	H22年から毎年テーマを決めて作成している壁絵や干支の作品を12年一巡したところで、どこかの場所で展示して、利用者と職員の力作を披露するのも面白い。大勢の地域の人に見てもらおう事で更なる創作意欲が増してくると思う。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・ホールの片隅に長いすを置いたり、テラスで利用者同士会話が出来るよう椅子を置くなどしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・入所時に家で使っていた物を持ってきてもらうようにしている。面会時に家族の写真や鉢植えなど持ってきておられる。	居室の備品は家族が持参しており、ベッド、ダンス、ソファ、加湿器等が置かれ、中には冷蔵庫を置いている人もいる。個々の身体状態に合わせ、転倒時のクッション代わりにカーペットを敷いている部屋もある。花鉢が置かれ、家族の写真、ぬり絵等を展示して落ち着いた居心地の良い部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・自分の居室、トイレ、洗面所の場所や、手洗いの手順が解るように張り紙をしている。		